

かざね  
四万十の風音

しんせん  
森&川だより

## 中村小学校で森林教室（水はどこから、水のゆくえのお話）

四万十市立中村小学校より、「水はどこから、水のゆくえの話を通して森林の大切さについて児童に教えてもらいたい。」との支援要請があり、10月4日に四年生児童45名を対象に森林教室を開催しました。

最初に、「水源地の森林から川、水道の水、そして、水の循環について」スライドで説明しました。

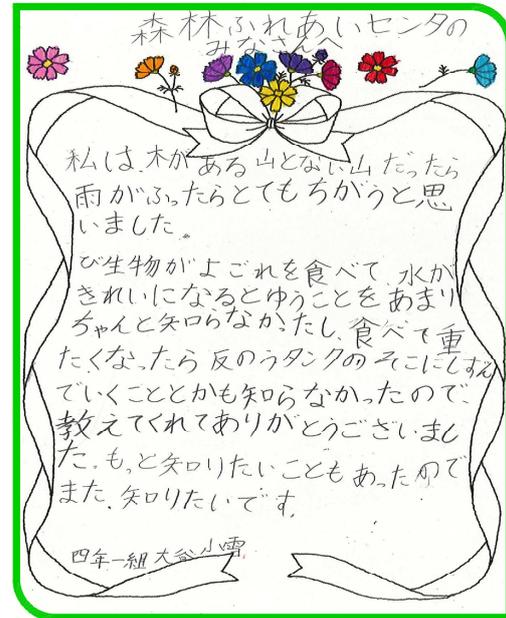
次に、「浄水場と下水処理場の仕組みについて」図等で説明し、「地球上の水は循環しているので、取り尽くしてしまうことはないけれど、どこかで汚してしまうと大変なことになるので、できるだけ汚さないよう大切に利用しよう。」と説明しました。

最後に、児童から、「私たちが森林を守っていかないといけないんだなと思いました。」との感想があり、学校からは、「写真やスポンジが水を蓄えている様子を見せてもらい、緑のダムと森林を大切にしていくことを関連づけて話して頂き、子ども達は興味を持って学ぶことができました。」とお礼の言葉がありました。

当センターとしても学校の要請に応えることができ、身近な自然や飲料水の源である森林を大切に守って行くことが必要であることを理解していただき大変有意義であったと考えています。



## 中村小学校児童の感想文



## 秋が深まる八面山で登山体験学習（四校）

四万十川の支流で黒尊川源流域の森林である八面山や<sup>つりおね</sup>吊尾根の天然林は、野生生物やシイ・カシ林からモミ・ツガ林、ブナ林への植生の移り変わりなどつづさに観察出来る良いフィールドです。

10月12日から11月2日にかけて四万十市立西土佐中学校と西土佐小学校、そして、四万十市立利岡小学校、愛媛県松野町立松野西小学校の四校80名の児童生徒を対象に八面山登山体験学習を実施しました。

それぞれの学校とも準備運動の後、登山口を出発し歩道沿いの樹木や二ホンジカの食害などの学習をして約50分で八面山山頂（1,165m）に到着しました。

山頂では、高知県と愛媛県の県境や遠くに見える三本杭のすぐ右の山「横の森」に藩政時代に土佐藩と宇和島藩と吉田藩とがそれぞれの領地の境として杭を立てていたことから、それがいつのまにか「三本杭」いう現在の山の呼び名になっていること、また、源流域の森林が川本来の良好な清流を育てていることを説明しました。

その後、八面山吊尾根のブナ天然林へ移動して、「ブナ天然林の価値」や「森林のはたらき」などを説明した後、自然散策やネイチャーゲームの「カモフラージュ」や「サウンドマップ音いくつ」などをして勉強しながら秋の一日を楽しみました。

下山後に児童生徒から、「学校での事前学習や登山を通して森林のはたらきやいろいろな樹木を知ることができました。ネイチャーゲームもとても楽しかったです。」また、「九州が見えて嬉しかったです。」との感想がありました。

この森林教室でウリハダカエデやケヤキなどの木肌を手で触り、それぞれの違いを確かめたり、ミズメの木肌はサクラと似てるけどミズメの樹液はサロンパスに似た匂いがすることやブナの実を探したり、森の土や落ち葉を手で触れてみるとフカフカなことなど、体験や学習を通して児童生徒の自然や森林等への理解と関心が深まったと思います。

### 西土佐中学校



### 西土佐小学校



### 利岡小学校



### 松野西小学校



秋の深まる八面山思い出スケッチ

かなづき  
神無月

10月



発行日：10月15日(月)

4年生学級通信 NO. 31

# 4年生全員元気に八面山登山へ！ 10月12日



はじめとおわりのあいさつ  
涼さんと翔梧さん  
前に出てしっかりとすることができました。



お世話になった、ふれあいセンターの  
川村さん、松山さん、田辺さん



最初の難所。急な階段に用心しながら・・・  
山道を一列で進みました。



高いところからの景色に歓声が上がりました！  
遠くに九州が見えました。ススキもきれいでした。



所々で止まって、木や山のことを教えていただきました。



八面山頂上 1165メートル



大久保山頂上 1158メートル



ブナ林でお昼ご飯。風が吹いて寒い中での昼食でした。みんなで固まって食べました！！お弁当の準備ありがとうございました。普段は経験できないことを校外学習で経験できました。寒い場合があるよと事前学習もしていたのですが・・・(山の気温は100メートルごとに約0.6度低くなる)やはり寒かった。家に帰った後の子どもたちの様子はどうだったでしょうか？登山後のことで何かが付いたことがあればお知らせください。登山で勉強したことは今後まとめていきます。

## 学級通信

# 中筋川ダムの『螢湖まつり』でかんたん木工教室を 開催

宿毛市平田町黒川の中筋川ダムで10月28日、「第23回螢湖まつり」が開かれ、四万十森林管理署と当センターが合同で「かんたん木工教室」を出店しました。

このイベントは、蛍湖まつり実行委員会の主催で地域の交流・連携およびダム事業への理解を深めることを目的として平成8年度から毎年開催されていますが、今後は同じ宿毛市山奈町山田で平成32年度に完成に向け建設中の横瀬川ダムにイベントは引き継がれることから当地での開催は今年度で最後となりました。四万十森林管理署も発足時より委員会のメンバーとしてかたん木工教室の担当として参加してきていたのですが、今回は四万十市中村で開催された幡多山もりフェスのイベントと重なったこともあり、四万十森林管理署と当センターで協力して対応に当たることに成りました。

当日は、地元宿毛市や三原村、四万十市の連合婦人会のうまいもの市や建設業協会のミニバックホウ乗車体験などや、普段は公開されていないダム内部の見学や洗浄放水などが行われ、家族連れらで賑わいました。

当かたん木工教室コーナーには、親御さんに連れられた幼児や小学生など計110名の方が訪れ、ミズメやヒメシャラ等小枝の輪切りやヒノキ板を使ったストラップ作りやイスノキのマイ箸づくりなどを楽しんでいただき大人気となりました。

天候にも恵まれて、多くの来場者に木工クラフトづくりを楽しんでもらえたことで、国有林と地域との結びつきも深められた秋晴れの日となりました。



湖畔での「かたん木工教室」の様子

## 下川口小学校で木工クラフト教室と校庭の樹木学習を実施

土佐清水市立下川口小学校より要請を受けて、11月5日に全校児童22名を対象に木工クラフト教室を体育館で行いました。その後、三・四年生計4名を対象に校庭の樹木学習を実施しました。

木工クラフト製作のテーマは「メルヘンのマチの壁掛け作り」としました。見本を参考に作り方を説明したのち、各自が空想の世界を膨らませての自由製作とさせました。ミズメやヒメシャラの小枝やヒノキの小さな端材を使って自由に色をぬり、ボンドでヒノキの板に貼り付け、木の実などの自然素材やビーズ、コルク等も使って装飾してちりばめ、思い思いの作品を完成させました。

樹木学習では事前に当センターで樹木を下見、名前を調べて校庭の樹木配置図や樹木図鑑等の資料を作成し、児童には当日までに授業の中で樹木名板を製作してもらいました。

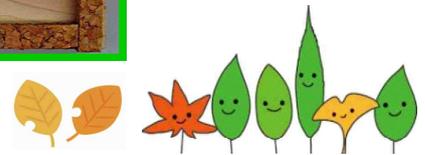
当日は校庭を周りながら樹木の名前や特徴を説明して、児童がシュロ縄を使って自分の作った名板を樹木に取り付け、小さな樹木には、当センター職員と樹木の立て札も設置しました。

後日、学校から児童の感想文の送付があり、「メルヘンの世界を木材などの自然素材を使っていろいろ考えて作るのが楽しかったし、もっとやりたかった。」「なかなかアイデアが浮かばなくて大変だった。」「今まではこの木と呼んで木登りして遊んでいたけど名札を取り付けたのでこれから名前で呼べるのがなんだかうれしくなります、学校に来るみんなに見てもらいたと思います。」との感想をいただきました。

今回の森林環境教育を通して樹木についての理解や興味、木材の良さを十分感じてもらえたと思います。

次回は、「土にすむ生物と山・川・海のつながり」をテーマとした森林環境教育を実施する予定です。





## 児童の感想文

平成三十年十一月五日  
下川口小 四年 廣畑 尋生

このころ寒いですがお元気でですか。  
今日四万十市から来ていただいてありがと  
うございませう。  
かバがけを作って楽しかったです。ぼくは  
夜にしてやりました。面白かったです。  
家とねったり作ったりするところがむずか  
しかったです。  
校庭のじり木はカイズカイズキはいつも登  
っているけど名前が分かったのでもうた下  
す。みんなにも見てほしいなあと思いました  
下川口小の松等を帰ってじっくり読みたいと  
思いました。  
クスノキは不思議なおいかみして虫が来て  
もそのにおいがきらいだからにげていくこと  
がわかりました。  
イチゴウはキョウリウウがいる時だいた  
いたからすこいと思いました。  
アコウは木をしめころすからこちいと思  
いました。ぼくは校庭の木が分かったから家の  
周り等の木を知っています。

# しまんと黒尊むらまつりで『体験コーナー』を担当

11月10日、四万十市西土佐黒尊の黒尊親水公園で第13回目となる「しまんと黒尊むらまつり」が、自然との共生や地域の盛り上げを図る黒尊川流域の住民グループ「しまんと黒尊むら」と「四万十くろそん会議」の主催で開催されました。

当センターからは、「体験コーナー」の担当で参加しました。当日は秋晴れの晴天となり四万十市中村や黒潮町からの団体客など沢山の来場者で賑わい、老若男女にイスノキ製のマイ箸作りやミズメなどの小枝や杉板の輪切りを使ったゆるキャラなどのストラップ作りを通して木に親しんでいただきました。

会場では黒尊川流域の各地区の人達が地元の食材を使ったイノシシ汁やシカの串焼き、つきたての餅などを販売し、来場者が買い求めてはおいしいと舌鼓を打っていました。また、会場を盛り上げる土佐の寅さんこと間六口さんの愉快な漫談とバナナのたたき売りも行われ、最後のお楽しみのじゃんけん大会では勝者には地元の農産物や加工品などビックな景品が貰えるとあって参加者も見ている人も大興奮、笑い声が山間に響きました。

今年も会場は終日大賑わいで、秋が深まりつつある黒尊川流域での一日を満喫されました。



## 「体験コーナー」の様子

### マイ箸作ったよ



## 滑床山シカ防護ネットを新設しました。

11月13日から11月14日の間で、裸地化が目立つ「滑床山熊のコル手前のギャップ」にシカ防護ネット柵(面積0.35ha、ネット延長約298m)を設置しました。

この結果、これまでに設置したシカ防護ネット柵は面積7.22ha、延長4,733mとなりました。

### 作業中



### 完成後



## シカ防護ネット柵の効果

ネットで囲んだ所はシカに樹皮や下層植生を食べられたりしないことから、ネット設置から数年経過すると、植生が衰退していた箇所でもミヤコザサ等の植生が徐々に回復しています。



## 旧西ヶ方小学校でクリスマスリース作り

四万十市立西土佐小学校から「木工体験を通してふれあいセンターや西ヶ方<sup>にしがほう</sup>地域に親しみを持ちたい。」と11月20日、二年生14名が予土線<sup>よどせん</sup>の江川崎駅から西ヶ方駅まで汽車に乗ってふれあいセンターのある旧西ヶ方小学校にやって来ました。

この時期にマッチしたクリスマスリース作りをすることとし、先に作り方を説明してサンタクロースや雪だるま、トナカイに切り抜いたファルカタ材（桐板の代用品）やスギ板のリースに見立てた円盤に自由に色ぬりをした後、ボンドで円盤に貼り付けて、木の実などの自然素材やビーズ等で装飾して作品を完成させました。

児童からは「スギ板のリースに見立てた円盤に飾る物が沢山選べて想像しながら作れたのでとても楽しかったです。」「かわいくできたので家族に見せてからクリスマスに飾ります。」との感想をいただき、楽しみながら木材に親しんでもらいました。

今回の木工クラフト作りを通して、木の持つ温もりと素材としての木材の良さを十分に感じてもらったものと思います。





## 西土佐小学校(旧西ヶ方小学校にて木工教室の様子)



## ニホンジカの捕獲状況

当センターでは、高知県四万十市の黒尊山国有林、愛媛県松野町の目黒山、宇和島市の滑床山国有林において、大型・中型・小型の囲いワナ、合計19基を設置して、森林への被害が少しでも減少することを期待し、ニホンジカの頭数調整に取り組んでいます。





黒尊山



平成30年度シカ捕獲実績 (平成30年11月末現在)

捕獲場所 	合計
黒尊山国有林(高知県)	8
目黒・滑床山国有林(愛媛県)	8
 合計	16 









**林野庁 四国森林管理局**  
**四万十川森林ふれあい推進センター**  
 高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2  
 電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031

